ゴルフエッセー「耳と耳のあいだ」(第3回)

困難な目標は、見方を変えることが攻略の第一歩

2015.10.14

多くの人が愛してやまないゴルフ。時には難所といわれるコースを打ち進まなければなりません。初めてのコースならば、なおさら難度も上がるというもの。先が見えない目標に対して、臆してしまうのも仕方がないことです。しかし何度挑戦してもなかなか攻略できない、そんなときは少し見方を変える必要があるかもしれません。

目線を変えるとコースが違って見える

ゴルフは、ホールごとに設定されたカップに向けて、ティーグラウンドからボールを打ち、セカンドショット、サードショットとコースを打ち進め、最終的にグリーン上にあるカップ(ホール)にボールを入れます。できるだけ少ない打数でボールを入れる、これがゴルフ競技です。ある程度ゴルフの経験を積んだ中上級者は、どのようなルートでカップインを目指すか、その戦略を立て、できるだけリスクを少なく、かつ効果的にコースを攻めていきます。例えば、ティーショットは左のバンカーを避けてフェアウエーの右サイドを狙い、そこからグリーン手前の花道(安全な場所)を狙っていこう、といった具合です。

ですから、ゴルフでは通常、次に打つ先を見ています。そして、カップインしたあとは、カートに乗るなどして次のホールを目指します。つまりゴルフでは、常に「次の地点」を見て行動しているのです。

さて、ゴルフをされる皆さんは、この通常の目線を変えてみた経験はあるでしょうか？ つまり、セカンドショットの地点からティーグラウンドの方を見たり、グリーン上からフェアウエーの方向を見たりした経験です。そのような経験は少ないかもしれませんが、いつもの目線とは逆の目線でコースを見ると、同じコースでも全く違うコースのように見えることが多々あります。

例えば、ティーグラウンドからセカンド地点を見た通常目線では「狭いなぁ」と感じたホールが、グリーン側から眺めて見ると意外に広く感じたりします。また、セカンド地点からグリーンの方を見たときは、そのすぐ手前まで池が広がっているように見えた景色も、やはり逆目線で見ると、池とグリーンの間が思ったより広く、特にプレッシャーを感じるほどではないことに気づく、といった具合です。

これはつまり、「物事はゴール(目標)から見るほうがやさしく見える」ということです。今いる地点から目標地点を見ると、「狭いなぁ」「難しいなぁ」「プレッシャーだなぁ」と感じても、目標地点から現在いる場所を見ると、意外とやさしく見えるものなのです。

少し脱線しますが、ゴルフをまだ始めていないけれど、当記事を興味深く読まれている方がいらっしゃるかと思います。ゴルフの用語はこちらのゴルフ用語辞典が詳しいので、どうぞ参考にしてください。

難題もゴールから見ると意外にやさしい… 続きを読む